

## 会 議 録

会議の名称	平成20年度 第4回環境審議会
開催日時	平成20年9月29日(月曜日) 10時00分から12時00分まで
開催場所	エコプラザ西東京 講座室1・2
出席者	【委員】野田会長、伊藤副会長、北村委員、筒井委員、吉村委員、齋藤委員、堤委員、奥委員 【事務局】斉藤生活環境部長、大和田環境保全課長、三城環境計画係長、西野環境計画係主査、佐藤環境計画係主事
議 題	1 開会 2 委嘱式 奥委員自己紹介 3 (仮称)西東京市地球温暖化対策地域推進計画の全体構成案について 4 西東京市内の温室効果ガス排出量算定結果について 5 課題について 6 削減目標の考え方について 7 その他 8 閉会
会議資料の名称	【配布資料】 【資料1】(仮称)西東京市地球温暖化対策地域推進計画 全体構成案 【資料2】温室効果ガス排出量の算定について 【資料3】温室効果ガス排出に関する特徴と課題 【資料4】(仮称)西東京市地球温暖化対策地域推進計画 削減目標の考え方について 【当日配布資料】東京都における太陽エネルギー利用機器の補助制度 堤委員からの提供資料
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>(10時00分 開会)</p> <p>1.開会     野田会長より傍聴者の確認及び前回会議録の確認</p> <p>2.委嘱式     奥委員に委嘱状の伝達</p> <p>3.議案     (1)(仮称)西東京市地球温暖化対策地域推進計画の全体構成案     (2)西東京市内の温室効果ガス排出量算定結果について     (3)課題について         事務局より【資料1・2・3】の説明</p>	

**筒井委員**

【資料1】の2ページに書かれている地域推進計画と実行計画の関係はどのようなものですか。

**事務局**

地域推進計画は、西東京市の地域全域の温室効果ガス削減のための計画で、この審議会で考えて頂くのは地域推進計画です。実行計画は、市役所などの公共施設から出ている温室効果ガスの削減のための計画で、策定は法律上義務付けられています。

**筒井委員**

(仮称)とついているが、今回で(仮称)は取れるのですか。

**事務局**

今のところは(仮称)とついています、パブリックコメントが出る頃には(仮称)を取りたいと考えています。

**筒井委員**

前回の会議で2003年に原子力発電所の関係で排出係数が増加したという説明がありましたが、資料の8ページに排出量が増加傾向にあると書かれているが、その部分を分析して、要因を記述するべきではないか。こういう表現だとミスリードする可能性がある。

**堤委員**

資料の11ページの「参考」のところに書いてあります。

**筒井委員**

参考資料としてはよいが、8ページの本文に整理して書かないとミスリードする可能性があります。

**事務局**

計画本文の中では、きちんと整理して分かるように記述します。

**吉村委員**

資料の11ページのグラフ中の点線は、原子力発電所が停止しないと仮定したときの排出量だということでしょうか。

**事務局**

はい、そうです。

**吉村委員**

資料の8ページで、民生業務部門が38.9%と増えている一方で産業部門が減っている。また、26ページに他の自治体の目標が書かれているが、自治体によって目標設定がまちま

ちである。6%という目標値を掲げている自治体が多いが、北区では非常に現実的な目標としているが、その違いが分かれば教えていただきたい。

#### **事務局**

排出量の値については、もう少し分析したいと思います。目標の関係は、この後の資料説明の時に説明させていただきます。西東京市として、どうするか整理する必要があります。

推測論ではありますが、住友金属跡地、IHI跡地にマンション等が建設されたことによる人口増が効いてきているのではないかと思います。

#### **伊藤副会長**

資料の10ページに記載されている原単価について、原単価を求めるための指標は、東京都で設定したものをしているのか。また、一般廃棄物部門で用いているごみの排出量は最終的な処分場での排出量なのか、西東京市で出している廃棄物なのか。

#### **事務局**

原単位を求めるための指標について、東京都でこの値を使ってくださいというような決まりは特にありません。将来推計をするにあたって用いている指標を使って原単位を計算したものです。

また、一般廃棄物部門からの排出量の算定には、西東京市で出されているごみの焼却量の値を用いています。

#### **伊藤副会長**

他の自治体は同じものを使っているのか。西東京市だけの問題ではなくて、単位が揃っていないと比較が出来ないと思います。

#### **事務局**

他の自治体の多くは、計画の中に各部門の原単位を記載していないが、参考として一人あたりや世帯あたりの排出量を出しているところは多いので、その値と比較できるのではないかと思います。

#### **齋藤委員**

11ページにおいて、民生家庭部門と民生業務部門のグラフはあるが、産業部門のグラフがないのはなぜか。

#### **事務局**

産業部門については、製造品出荷額で按分するという方法で排出量を算定しています。燃料種別ごとの排出量を積み上げて算定するという形をとっていないため、電気の排出量が分からないのが現状です。

#### **齋藤委員**

運輸部門の割合が、西東京市は東京都と比べると非常に少ないが、どのように算定しているのか。

**事務局**

西東京市に保有されている自動車台数を基に算定しています。

**齋藤委員**

市に登録していない営業者などはカウントされているのか。

**堤委員**

西東京市に収集運搬の車両を持っているが、これは市には出さないの、排出量のカウントに入っていないかも知れない。

**事務局**

再度確認をします。

**野田会長**

排出量の算定に関しては強引にやらざるを得ないところもあり、それをどこまで詰めていくのかは難しいが、齋藤委員の質問については確認して頂きたい。

**吉村委員**

資料1の構成案については、今日が終われば了承されたということになるのか。たとえば、イメージ図の内容でいうと、市の果たす役割が不十分であり、このままでは了承できない。

**事務局**

基本的にはこの形で進めていきたいと思いますが、来年の2月に中間報告という形で出した際に、そこでも議論して頂ければと思います。

**吉村委員**

現時点では中味の詰めは将来に送り、今日は構成案のスタイルの可否だけということなら了解しました。

**野田会長**

運輸部門に関しては手直しをお願いします。

事務局より【資料4】の説明

**筒井委員**

東京都の目標と国の目標の基準年度や目標年度が異なるので、それを明確してもらいたい。また、国の場合は、2008年から2012年の目標ということで、すでに今が2008年なので、

実績値が入ってくる。東京都の場合は、2020年为目标年次で12年後を考えている。西東京市で策定する場合は、今が2008年なので、2020年といったそういう形の議論になるのかと思う。

#### **伊藤副会長**

計画の策定においては、現実的にCO<sub>2</sub>排出量が削減できるかということが根本だと思う。ある程度中期的な目標があって、それを分けた5年後といった目標を設定していかないと現実的に削減に結びつきにくい。

また、削減目標の設定には、削減効果を積み上げていって累積としてこれだけ削減するといった目標を立てるやり方と、最初に目標を決めて、それを実現するにはどうするのだろうかという、いわゆるバックカスティングというやり方の二つアプローチがある。西東京市においては、東京都の目標にあわせるのがいいと思う。東京都が25%を削減することとして何を狙っているのか、また東京都は2020年の先をどのように考えているのかというのを知りたい。

#### **堤委員**

国が策定したものと、東京都が策定したものとを比較したうえで、西東京市としてどう策定するのが検討した方がいい。

#### **事務局**

具体的には、次回の審議会に東京都の岡部委員が来たときに説明してもらいたいと思っています。東京都は今年の3月に環境基本計画を改定しており、そこに削減目標が記載されています。

#### **筒井委員**

削減目標の考え方としては、今のままいくところなるけれども、西東京市としては、どれだけのものをやれば目標に近づくのか、どういう対策を打てばいいのかということになるのかと思う。具体的にどうすれば目標に近づけるのか。絵に描いた餅ではなくて、目標に向けた対策はどのようなものが考えられるのかといった部門ごとの検討が必要になると思う。

#### **吉村委員**

前回の議論の中で、西東京市のあるべき姿などいろいろな意見が出たと思うが、例えば緑被率の向上だとか短期的にはできないものもある。ただ、あまり長期的な目標設定になってしまうと市では出来ない。しかし、実現可能性のみにとらわれてあまり夢のない目標を立てても面白味がない。そういうことを考えると、中期的な目標が適切なのかと思う。

#### **筒井委員**

前回の資料の中に、20年度には排出量の推計・予測、地球温暖化にかかる基本方針の検討、施策、削減目標の設定を3月までにやるという予定が書かれている。煮詰められるものから煮詰めて、次回以降議論していったらいいのではないかと思う。整理できるものが

ら前倒して固めていった方がいい。

**野田会長**

あまり議論にならないところは、時間がある時にやった方がいいということですか。

**筒井委員**

例えば基本方針については、事務局の方で整理して頂き提示してもらえればいい。

**野田会長**

議論を繰り返してブラッシュアップされていくことになると思う。

**伊藤副会長**

前回の会議の時に全体のスケジュールの資料があったが、進め方についての説明がさらっと流れたから明確に意識しづらかったと思う。

**奥委員**

西東京市は、基礎的自治体であるので、国の目標には引っ張られない方がいい。そういう意味で、東京都が積極的な数値を出しています。例えば、ロンドンでも60%削減するという目標をたてています。東京都の動きの方をにらみつつ、基礎的自治体である西東京市がどうするかを考えていくべきです。基礎的自治体ができる手法というのは限られていますが、中長期的な目標の方がいいと思います。2012年はすぐ来る話であり、具体的な数値は最終的には政治的な判断がかかってくるのではないかと思います。25ページの案の中では案2がいいと思います。

**野田会長**

西東京市のレベルで、法的根拠を持った規制がどの程度まで可能ですか。

**事務局**

西東京市で法的規制というところまではまだ難しいと思います。考えられることは補助金の交付などがあります。開発についても許認可をしている自治体ではないので、今すぐにというのは難しいです。

**吉村委員**

出来ることは限られる。できないかも知れないけれどもやりたい、西東京市のあるべき姿として可能な限り追求していきたいと思う。

**北村委員**

環境問題というのは西東京市だけではなくて近隣の都市と密接に結びついている。その中で、西東京市がどこの市と一緒に協議しながら考えているというのはないのか。

**事務局**

今のところありませんが、多摩地域で情報交換をしながらやっていこうという動きはあります。

#### **伊藤副会長**

ごみの処理を考えても、西東京市だけでやっているのではなく、近隣市と共にやっている。環境問題を考えるということは、近隣自治体も含めて考えるということだと思う。近隣自治体はどのようなことをしているのかという情報公開をする場を設けるということだけでも重要だと思う。

#### **北村委員**

西東京市が取り組んでいくことの他に、近隣自治体とどうやっていくかが大切です。

#### **事務局**

多摩地区では武蔵野市、日野市が環境に対する意識が高いと言われています。市長会でも環境部会というのがやっと認知された状況であります。

#### **伊藤副会長**

西東京市に積極的に引っ張っていただきたいと思うが、近隣自治体の担当者を集めてシンポジウムを開くなど始めて頂きたいと思う。

#### **吉村委員**

新宿区が伊那市で森林整備事業を始めた。こういうことを即やれといってるわけではないが、西東京の市域を越えた事業連携も必要だ。

#### **事務局**

財政状況という問題があります。西東京市は合併をしたので、財政的にもこのようなことを議論できる余裕がありますが、他市では環境の話をする以前の問題という財政状況の自治体も多くある。

#### **堤委員**

西東京市は幸いに温暖化に関する取り組みが許される状況がかなりあるということで、少し大きなステップをするという意欲があるということによろしいか。

#### **事務局**

このような環境学習センターという建物を作ったことも、これが無くても自治体の運営は出来るという意味で、意欲の一つと思って頂きたい。

#### **北村委員**

近隣市の状況は分かりました。奥先生の話の中で、自治体の長がエイヤーということも大切ではないかということがあったが、市長の考えはどうか。

#### **事務局**

まだそういう話にはなっていませんが、東京都の目標が出ていますので、それに対しては強く意識しています。みなさんの議論が中間報告や最終答申で上がったときに、それを受けて行動に移してくれると思っています。

#### **北村委員**

東大の農地を残すなどの話を伺っているが、具体的にどのように取り組むかという考えを伺っていない。

#### **事務局**

市長は環境学者ではないので、こういう審議会で上がってきたものを受け入れたいという意向である。

#### **筒井委員**

国の目標があるが、都知事がああいう取り組みを見せているならそうしないといけなと思う。環境問題についてこれをやっていると胸を張れたらいい。市民がどれだけついていけるか、それには広報などの情報発信も必要だし、自発的についていけるような施策が重要になってくる。

#### **事務局**

市長は環境問題に熱心です。こういう取り組みはできないかという話はよくあります。中長期の目標は、必ずしも出来るかどうかはわからないけれども、ここまでやろうということが大事だと思います。また、財源を使った施策と使わなくても済む施策とを組み合わせながらやっていきたいと思います。

#### **筒井委員**

家庭においては家電製品の省エネや太陽エネルギーの使用など、できるものから取り入れて、西東京市はこういうことができるというものを示して欲しい。目標値に近づけるような施策をやって欲しい。それには市のトップの考え方もあるだろうし、市民の考え方もある。市として効率的に目標に近づけることが重要。

#### **事務局**

東京都には、地球温暖化の計画書制度や中小事業所向けの公表制度もあるので、市町村として何が出来るのか、東京都の制度をベースとして、どうしていくのかという議論になるのかと思う。

<事務局より、「東京都における太陽エネルギー利用機器の補助制度について」の説明>

#### **北村委員**

市全体のISOみたいなイメージで、西東京市の個々の家庭が連結するようなことは可能なのか。個々の家庭や市民が自発的に、こんなことができるということで動いていくよう

なイメージである。強制的にされると厳しい。

**事務局**

市では環境家計簿などを配布していて、市民に活用してもらっています。

**北村委員**

自分だけがやっているのではなくて、連結していることが実感できるようなイメージが持てるといい。

**事務局**

県レベルでは温暖化センターの設置が義務化されていますが、市レベルでは、まだないので情報提供などが大切になってきます。

**北村委員**

19万の市民全体が動きたくなるような施策があるといい。

**奥委員**

資料1の2ページと3ページは平成19年度に提出されたものを再掲したようだが、今年に改正されている。実行計画は義務化され、西東京市では、すでに策定されていて、それとは別に地球温暖化対策地域推進計画を策定するというのでいいか。いずれは、実行計画も取り込んだものとして一本化していくことが必要だと思う。

**堤委員**

ISO14001の話だが、市民を巻き込んでということになると、かなり大掛かりな仕組みが必要になってくるので、エコアクション21なども考えられます。

**野田会長**

太陽光の話についてどうですか。

**事務局**

この計画が出るのは22年度になってしまうが、その前に東京都の取り組みが出てしまった。その結果、西東京市としては、計画策定の前倒しになりますが、来年度の予算編成をする上で、皆様のご意見を伺いたいと思います。

**野田会長**

全委員の方から、太陽エネルギー利用機器の補助について承認されました。

**筒井委員**

25ページの削減目標は、ここで決められるといいのではないかと思います。これまでの議論だと、短期的なものではなく中長期的なものがないということだが。

**伊藤副会長**

中長期的なものというようにスパンを決めて、事務局で案を出して頂ければと思う。

**事務局**

次回は、11月17日(月曜)10時からです。会場は、田無庁舎の隣のイングビル3階、第3・第4会議室で行います。その次の1月開催予定日を調整してください。

**野田会長**

1月19日(月曜)10時で決定します。

これで、第4回環境審議会の審議を終了したいと思います。

(12時00分 閉会)